

「遊ぼう」が 言いたくなる家

子どもの笑顔は明日の活力。
たとえ短い時間でも、きちんと
向き合える場所をつくろう

14

どっちが早く上れるか
つい競争したくなる

室内が公園になる アスレチックスペース

人気のボルダリングをはじめボールやうんていなど体を使って遊べるスペースがあると、子どもたちは大喜び。例えば吹抜けの子ども室の1階を遊び場、2階を寝室にして壁やポールで2階に行けるようにすると、大人も十分楽しめるアスレチック仕様にできる



設計／えぬがらす級建築事務所

四季や自然を感じられる 植栽豊かな中庭

まずはお茶を飲みましょう。誰かに招かれたら、その家のお茶を飲まなければ何も始まらない。とても英国的な習慣ですね。お茶のあるところに希望あり」(笑)翌日に工房でつくる予定のマーメイドに加えるハーブを自宅の庭で摘んでいくと聞き、を自宅の庭んで____21字×6行



設計／セキデザイン 撮影／福澤昭嘉

いつの間にかそこにいる
家族みんなのお気に入り

12

目線の変化が楽しい、小上がり&ロフトの造作家具

広いLDKのあちこちに、家族が寄り集まって過ごすような小さな居場所があると楽しい。小上がりやロフトを、本棚や収納も組み込んだ大きな家具として造作しよう。高いところや洞窟のような空間は子どもをワクワクさせるし、さまざまな高さの目線でのコミュニケーションを可能にする

花や木の名前が言える大人に
育てほしいと思うから

13



設計／ミサワホーム